

二月二日、村田互(40)の現役最後の試合は古巣の東芝が相手だった。15点のリードを許した後半29分からの出場。試合はほぼ決まっていたが、村田はいつものように前へアタックし続けた。

# 引退模様

## 2008

だ「体力的には限界を感じていなかっただけ、まだ引退はない」と断言していた。しかしシーズンに入ると、試合中何度か脳しんとうを起こすようになった。「体がメッセー

### ラグビー元日本代表 村田 互 (40)

# SHの新たな魅力見せる

ないタイプのスクラムハーフ(SH)だった。素早い球出し、強引なまでの密集への突破に、左足のロングキック。スタン・ドオブ(SO)に比べ、「つなぎ役」の地味な印象が強かったSHに新しい魅力を持ち込んだ。世界に初めてその輝きを見せたのが一九九一年の第2回ワールドカップ(W杯)、スコットランド戦。9-47の完敗だったが、スピード豊かな村田のプレーは「日本最高のプレーヤー」と称賛され、「こっちはやらないか」とスコットランドから声がかかった。移籍は実現しなかったが、国内では「個人技に頼りすぎるとの否定的な意見もあっただけに」海外で認められたことは大きな自信になった。

ところが、4年後の第3回W杯のニュージーランド戦で17-145の歴史的な大敗を喫した。「日本でプレーしたい」という本ラグビー界に汚点を残した」という屈辱。と同時



海外で認められたことが大きな自信になった

## 監督業へ華麗に転身

東芝府中(現東芝)で日本選手権3連覇を果たした九九九年、引退もちらつき出すはずの31歳で東芝退社を決意。フランス2部のアビロン・バイヨンとプロ契約を結び、日本のラグビー選手で初のプロとして2年間プレーした。

プロといっても収入は東芝時代より減った。高いレベルでプレーしていた、という思いだけが原動力だった。だから「トップリーグの待遇が良くなって、海外に挑戦しよう」という選手がいなくなると。特にSH。世界で勝負できそうな選手はいらぬのに」と現状に物足りなさも感じている。

濃密な現役生活を終え、と、間髪を入れずに7人制日本代表監督就任を要請された。「早いな」

「早いながら、いずれは指導者に」という気持ちはあっただけに迷いはなかった。現役最終戦から一月足らずの二月二十七日には就任記者会見の席に着いていた。

十月のW杯アジア予選は全勝で突破し、来年三月にアラブ首長国連邦・ドバイで開催される本大会にコマを進めた。「ア人制の方が(強豪国に)勝つチャンスがある。日本の特徴である俊敏性を生かしたい」とすっかり監督の表情で語った。(馬場到)

### 日本初のプロ

むらた・わたる 1996年1月25日、福岡市生まれ。小学生の時に福岡の草津ケ江ヤングラグでラグビーを始める。専大4年時に主将として関東大学リーグ戦グループ優勝。99年東芝に入社し、96年度から日本選手権3連覇に貢献した。

日本代表では91年のワールドカップ(W杯)スコットランド戦をはじめ、W杯3度出場。99年、フランス2部のアビロン・バイヨンと契約、日本初のプロ選手となった。2001年にヤマハに移籍。引退後は7人制日本代表監督に就任した。